

KYOTO NATIONAL MUSEUM

2022 January to March vol. 213



新春特集展示

寅づくし―干支を愛でる―

特集展示

新収品展

特集展示

後期古墳の実像

―播磨の首長墓・西宮山古墳―

特集展示

雛まつりと人形

〔予告〕伝教大師一三〇〇年大遠忌記念特別展

最澄と天台宗のすべて

京都国立博物館

だより

二〇二二年

一・二・三月号

【新春特集展示】

寅づくし

「千支を愛でる」

令和4年1月2日(日)～2月13日(日)
〔平成知新館 2F-11-3〕

🐾 こんどの「千支を愛でる」はファミリー向け！

🐾 作品を見るのが楽しくなる
ワークシート(小学校低学年～)あります！

🐾 やさしい解説文(小学校高学年～)あります！

二〇二二年の干支は寅(虎)ですね。日本には野生の虎がいません。そのため昔の人たちは、海の向こうから伝えられる絵やお話、毛皮などをもとに、虎についての想像を膨らませてきました。生きた姿を見るのが難しかったはずなのに、虎は、たくさん日本の美術に登場します。日本や東アジアの人たちは、さまざまなお話を虎に込めて虎を表しました。美術の中には、いったいどんな虎たちがいるのでしょうか。展示室で、ぜひあなたのお気に入りを見つけてください。(水谷亜希)

※第一章 強いトラ、かわいいトラ、どんなトラ？

虎は、強く、特別な力を持つ、めでたい生き物だと考えられてきました。でも実は、美術の中の虎は、それだけではありません。情けない虎や、優しい虎、猫のようなかわいい虎もいます。あなたの好きな虎は、どんな虎ですか？

※第二章 トラと一緒に

虎と誰かが一緒に描かれる時、虎は、その人の引き立て役です。「恐ろしい虎が懐くほどすごい人だ」と、見る人に思わせるのです。また、龍と虎は、天と地を代表する特別な生き物と考えられ、よく一緒に描かれました。虎が棲むと考えられた竹林も、虎を描く時のお決まりの題材です。

※第三章 本当のトラは……

生きた虎を、できるだけ本物らしく描こうとした画家たちもいました。他の作品に登場する虎と比べて、どんなところが違うのでしょうか？じっくり見比べてみてください。



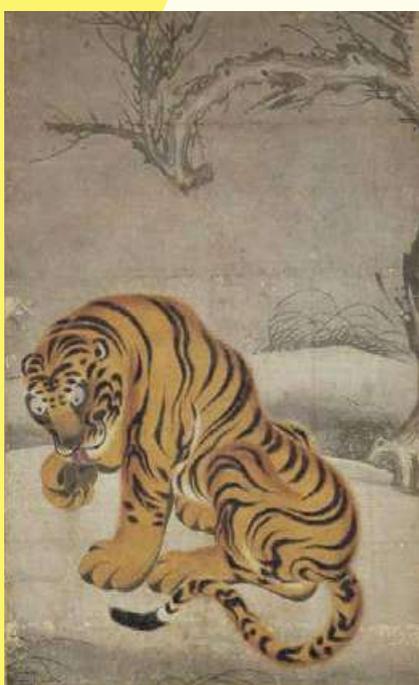
竹に虎文様掛下帯(部分) 京都国立博物館



重要文化財 龍虎図屏風(左隻) 単庵智伝筆 京都・慈芳院 (1/25～2/13 展示)



竹虎図 尾形光琳筆 京都国立博物館



猛虎図 伝李公麟筆 京都・正伝寺

◆ 夜間開館実施のお知らせ ◆
京都国立博物館では、新春特集展示「寅づくし 千支を愛でる」の開催(令和4年1月2日(日)～2月13日(日))の金・土曜日限定で、夜間開館を実施いたします。あわせて庭園のライトアップも行います。ぜひ来館ください。

【特集展示】 新収品展

令和4年1月2日(日)～2月6日(日)
【平成知新館 1F-3～5】



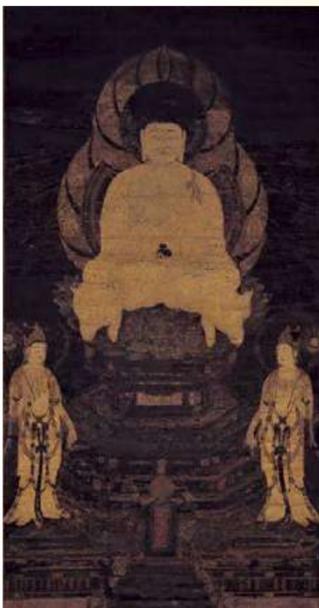
新たに博物館の収蔵品となった作品を展示いたします。当館では展示や研究に活用するために美術品や文化財、歴史資料などを毎年計画的に購入しています。また団体や個人のご厚意により作品を寄贈していただくこともありませう。お正月からの「新収品展」では令和元年度と二年度にかけて新しく収集した様々な分野の作品のうち約四十件を展示します。

江戸時代の京都の画家伊藤若冲の「百犬図」(写真1・十八世紀)は彼の晩年の大作であるうえに、可愛らしい沢山の仔犬たちが描かれていて絵画ファンにはきつと喜ばれる作品です。永樂和全作「色絵古裂文食籠」(写真2・十九世紀)は仁清の作風



(写真1) 百犬図 伊藤若冲筆 京都国立博物館

を意識したものとされ、色絵銀彩が施されていて京焼の技術系譜を考える上でも興味深い作品です。ほかにも鎌倉時代の仏画「葉師三尊像」(写真3・十三世紀)や桃山時代に製作された「短刀 銘日州住信濃守国廣作/天正十九年二月吉日」(写真4・十六世紀)など見どころの多い作品を陳列いたします。是非ゆっくりと鑑賞ください。(宮川禎一)



(写真3) 葉師三尊像 工藤吉郎氏寄贈・京都国立博物館



(写真2) 色絵古裂文食籠 永樂和全作 京都国立博物館



【特集展示】 後期古墳の実像 — 播磨の首長墓・西宮山古墳 —

令和4年1月2日(日)～2月13日(日)
【平成知新館 1F-2】

兵庫県たつの市西宮山古墳は横穴式石室をもつ前方後円墳で、後期古墳のほとんどが後世の盗掘で実態が不明な中で、充実した内容の副葬品をもつことで知られています。

令和元年度京都国立博物館考古資料相互活用促進事業の過程で、地元機関や個人保管の写真・資料等の存在が明らかになりました。さらに、古墳跡地に所在する兵庫県立龍野高等学校には、同古墳石室石材の一部のほか、発掘調査時の記録写真が遺されており、副葬品の一部について出土状態を復原することも可能となりました。

本展示は、京都国立博物館・たつの市立龍野歴史文化資料館所蔵資料を中心に、これらの共同研究の成果をあわせて展示し、従来知られていなかった地方有力首長墓の実像を紹介いたします。また、戦後間もない文化財保護法体制下における黎明期の文化財保護の在り方や、日本古代国家形成期終盤(六世紀)における古墳時代後期の西播磨地域の歴史的位置と中央・地方の関係を考えます。(古谷 毅)



金製心葉形耳飾 京都国立博物館



円筒埴輪 たつの市立龍野歴史文化資料館



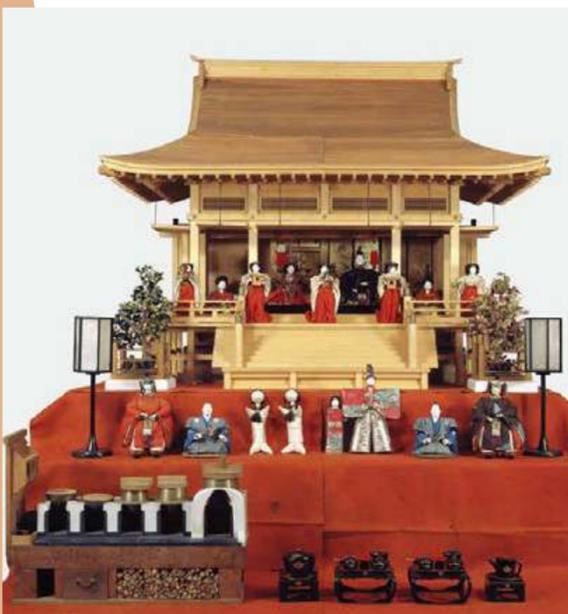
横穴式石室出土 大型須恵器群 (出土状態復原図) 京都国立博物館

雛まつりと人形

令和4年2月19日(土)～3月21日(月・祝)
【平成知新館1F-2】

本年もまた、雛の季節が巡ってきます。「雛まつりと人形」は、江戸時代に流行した各種の雛人形を揃え、その変遷をたどる当館恒例の特集展示です。とりわけ、展示室中央を飾る立派な御殿つきの雛段は、江戸時代後期に上方で流行した雛飾り。本年は、いずれも京都の旧家に伝来し、天保十四年・天保十五年と、たいへん近接した時期に製作された二点を並べて展示します。

そして本年の小特集は、雛飾りとともに伝来した雛食器。雛の節供には蛤のお吸い物やちらし寿司など、現代にも受け継がれる行事食があります。雛飾りに添えられた小ぶりの食器には、どのような馳走が盛り付けられていたのでしょうか。かつての上方の晴れがましい雛の世界がよみがえる展示です。ぜひお揃いでお運びください。(山川 暁)



御殿飾り雛 天保十四年(一八四三)頃

初公開

重要文化財 《菱亀甲文様小袖》

名品ギャラリー染織展示室
令和4年2月9日～2月27日 展示



重要文化財 菱亀甲文様小袖 京都国立博物館

粒状の鹿の子絞りを全体に連ね、絞り残した部分で小ぶりの亀甲と菱の輪郭線を表現した、総鹿の子絞りの小袖です。小袖とは、現代のキモノの原形となった衣服。背面全体を逆C字形の円弧で区切るのは、寛文六年(一六六六)に発刊された小袖のデザイン集『御ひいなかた』に特徴的な意匠構成です。から、本小袖の製作期もそれに近い頃と推察できます。さらにこの小袖には、文様の輪郭を縁取るように金の摺箔が施されています。「ふちはく(縁箔)」と呼ばれるこの技法は、江戸時代前期の作例に特徴的に見いだされるものです。以上の諸点により、本小袖の製作年代は十七世紀後半の寛文期周辺、技法の組み合わせからはそれを遡る可能性も想定できます。

二〇一六年に購入し、すぐに重要文化財に指定されましたが、このたびの「キモノと流行—小袖の美—」での展示が初披露になります。紅花による鮮やかな地色の光劣化による褪色が懸念されるため、三週間に限り、光量を絞って展示いたします。この機会をどうぞお見逃しなく。(山川 暁)

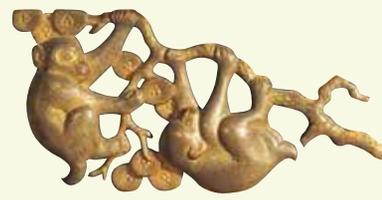
1月からの 平成知新館 名品ギャラリー

- 3F-1 陶磁
 - 【梅を愛でる】
 - 【日本と東洋のやきもの】
- 令和4年1月2日(日)～3月13日(日)
- 3F-2 考古
 - 【特別公開 四国の弥生土器と弥生・古墳時代の生産—辰砂と鉄—】
- 令和4年1月2日(日)～3月13日(日)
- 2F-1 絵巻
 - 【新春特集展示 寅づくし—干支を愛でる—】
 - 令和4年1月2日(日)～2月13日(日)
 - 【地藏信仰の絵巻】
 - 2月15日(火)～3月21日(月・祝)
- 2F-2 仏画
 - 【新春特集展示 寅づくし—干支を愛でる—】
 - 令和4年1月2日(日)～2月13日(日)
 - 【涅槃図】
 - 2月15日(火)～3月21日(月・祝)
- 2F-3 中世絵画
 - 【新春特集展示 寅づくし—干支を愛でる—】
 - 令和4年1月2日(日)～2月13日(日)
 - 【天神のすがた】
 - 2月15日(火)～3月21日(月・祝)
- 2F-4 近世絵画
 - 【平清盛没後八四〇年 盛者必衰—「平家物語」と源平の合戦—】
 - 令和4年1月2日(日)～2月13日(日)
 - 【博物館で桜を見る】
 - 2月15日(火)～3月21日(月・祝)
- 2F-5 中国絵画
 - 【清時代の絵画】
 - 令和4年1月2日(日)～2月13日(日)
 - 【中国の景勝】
 - 2月15日(火)～3月21日(月・祝)
- 1F-1 彫刻
 - 【四天王と毘沙門天】
 - 令和4年1月2日(日)～2月13日(日)
 - 【日本の彫刻】
 - 令和4年1月2日(日)～3月21日(月・祝)
- 1F-2
 - 【特集展示 後期古墳の実像 — 播磨の首長墓・西宮山古墳 —】
 - 令和4年1月2日(日)～2月13日(日)
 - 【特集展示 雛まつりと人形】
 - 2月19日(土)～3月21日(月・祝)
- 1F-3 書跡
 - 【特集展示 新収品展】
 - 令和4年1月2日(日)～2月6日(日)
 - 【花押(かおう) 個性ゆたかな先人のサイン】
 - 2月8日(火)～3月13日(日)
- 1F-4 染織
 - 【特集展示 新収品展】
 - 令和4年1月2日(日)～2月6日(日)
 - 【キモノと流行—小袖の美—】
 - 2月9日(水)～3月13日(日)
- 1F-5 金工
 - 【特集展示 新収品展】
 - 令和4年1月2日(日)～2月6日(日)
 - 【御正体—鏡像と懸仏—】
 - 2月8日(火)～3月13日(日)
- 1F-6 漆工
 - 【中国と琉球の漆芸】
 - 令和4年1月2日(日)～2月6日(日)
 - 【しあわせの貝合わせ】
 - 2月8日(火)～3月13日(日)

※3Fおよび1F-3～6展示室は、2月15日(火)から21日(月・祝)まで閉室となります。



(写真4) 短刀 銘日州住信濃守国廣作/天正十九年二月吉日 加藤静允氏寄贈・京都国立博物館



〈予告〉

伝教大師一二〇〇年大遠忌記念 特別展

最澄と天台宗のすべて

令和4年4月12日(火)～5月22日(日) 〔平成知新館〕

※会期中、一部の作品は展示替を行います。

王城の地、京都の鬼門を守る比叡山延暦寺。皇室の崇敬も篤く、京都には、皇族が入寺し延暦寺の里坊として営まれた天台宗五箇室門跡(曼殊院、青蓮院、三中院、妙法院、毘沙門堂)が並びます。この町は天台宗の一大中心地でもあ

るのです。伝教大師最澄の遠忌を記念して、ここから全国に広まった各地の天台寺院の名宝が、時を隔てて集結する展覧会が実現しました。京都は中心の一つだっただけあり、よく知られた名宝が数多くありますが、それだけでなく、関西からは足を運びにくい遠方の名宝、秘仏の出版に意を配りました。仏像マニアを自認される方でもご覧になったことがない、担当者としてもこれが最後の拝観機会になるだろうと予感している作品が並びます。これにより、天台宗が全国に結んだ絆、歴史を改めて感じて頂ければと存じます。

京都会場は、足を少し伸ばすだけで天台宗の名跡に容易にアクセスできます。まさに町ぐるみの壮大なスケールをもつ必見の展覧会としてご来館をお待ちしております。

(大原嘉豊)



菩薩遊戯坐像(伝如意輪観音) 愛媛・等妙寺



国宝 聖徳太子及び天台高僧像 十幅のうち 最澄(部分) 兵庫・一乗寺 画像提供:東京文化財研究所



国宝 金銅迦陵頻伽文透彫華鬘 岩手・中尊寺金色院 画像提供:奈良国立博物館 (撮影:森村欣司)



重要文化財 薬師如来立像 京都・法界寺



重要文化財 日吉山王金銅装神輿(樹下宮) 滋賀・日吉大社

「京の国宝―守り伝える日本のたから―」展を観覧して

京都府立大学教授 横内裕人

「京の国宝」展、第一室。ひととおりお品を拝見した私は、部屋の隅に立ち、観客の様子を窺っていました。国宝との邂逅に胸を躍らせ、部屋に足を踏み入れた方々は、部屋を見回して呆気に取られた様子です。目の前に並ぶのは、行政文書の数々。この部屋には、国宝が見当たらないのです。展示室第一室は、いわば展示世界の玄関口。学芸員が特別な思いを込めてお品を選び観客を招き入れる場所です。そこに国宝がないとは。「ただの国宝展ではない。」観客はそう直感したかのように、謎かけに挑むがごとく、陳列ケースの行政文書に目を落とし、時間をかけて熟覧していきます。一方、国宝を目当てに歩みを早めた方々は、次室の入口でようやく安堵の様子です。わたくしが国宝展の第一室で見たのは、そんな光景でした。

国宝展と銘打つ展覧会は数あれど、本特別展は、国宝展の名が惹起するさまざまなイメージを裏切る異色の内容でした。もちろん京都が誇る国宝の名品・名作は、たつぷりと用意され、一つひとつの作品をじっくり鑑賞し楽しむ場が設けられていました。その上で付言すると、今回の国宝展は、これほどまでに人々を引き寄せる国宝とはいったい何か？と観客に問い、その答えを「展示」してみせた希有な企画だったと感じます。

第一室では、行政文書やガラス乾板、調査ノートが、明治時代の激動のなか失われる宝物をまもろうとした、先人の努力と仕事の様子を語ります。そして観客は、自分が立っている「国立博物館」が国宝を保存するセンターの役割を果たしてきた歴史を知ることができます。さらに古社寺保存法から国宝保存法、そして現在の文化財保護法に至る法律整備の過程が公文書の原本で示されます。解説文では、文化財保護法が議員立法でなされた経緯などが語られま

す。観客は国宝を生み出した理念と制度への理解を深めたことでしょうか。

文化財保護法により、旧国宝は重要文化財になり、その内から現在の国宝が誕生します。会場では、昭和二十六年、第一回指定の作品のかたわらに「国宝台帳草稿」が参考資料として、そつと出陳されていました。作品の品質・形状を説明する手書きの文言には、見せ消で修正が重ねられていました。指定の審議会を通じて作品の学術的価値をとことん追求する姿勢が垣間見えます。なぜ国宝がすごいのかを伝える展示として評価できました。

第一室に並んだ行政文書や調査ノートは、一見無味乾燥な品々です。しかし開かれていたページやガラス乾板の写真には、のちほど会場で目にする国宝達を選び載せられていました。注意深い観客には、目の前に見る国宝を守り支えてきた人の仕事の有様が浮かんできたのではないのでしょうか。

そしていよいよ国宝が並ぶ部屋へと向かいます。美術工芸品の七分野から世界的な優品が、そして宮内庁保管になる新指定文化財などが出陳されています。これからの文化財指定の方向性が示唆されていました。これらの優品を見て、その多くが修理を経て維持されていることに気づかされます。最後の「今日の文化財保護」のコーナーは、文化庁が行っている「調査と研究」「防災と防犯」「修理と模造」の事業を作品とともに紹介するものでした。国宝をはじめとする文化財が、こうした様々な保護事業で守り伝えられている。だからこそ、この国宝展のように作品を展示活用で楽しむことが出来るわけです。国宝の素晴らしさ、そして国宝を支える人と制度。本展覧会は、この二つを「展示」で見せた異色の国宝展として記憶に刻まれるものとなりましょう。

【ミュージアムパートナー】

※令和3年12月末現在
京都国立博物館の賛助会員制度です。当館の活動について幅広くご支援いただいています。

【ゴールド】

三州ペイント株式会社
土屋和之

株式会社SCORPIONホールディングス

株式会社 俄

MSSHA株式会社

【シルバー】

有限会社 竹内美術店
学校法人 二本松学院

【寄附】

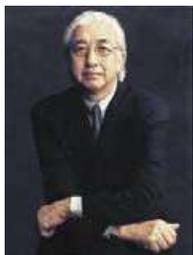
京都国立博物館では文化財とそれを守り伝えてきた先人の想いを次の1000年へと繋いでいくため、広く寄附を募っております。このたび、左記より寄附をいただきました。寄附の趣旨を踏まえ、大切に活用させていただきます。

中川 和子 様

【キャンパスメンバーズ】

「京都国立博物館キャンパスメンバーズ」は、国立博物館と大学等との連携を図り、博物館が所蔵する文化財を核として文化や歴史を共に学ぶ場を提供する会員制度です。会員である大学や専修学校の学生および職員の皆様には、当館名品ギャラリーを無料で観覧いただける機会などさまざまな特典を提供しています。会員校一覧など、詳細はウェブサイトをご確認ください。

◇ 京都国立博物館 平成知新館の設計者・谷口吉生氏
が、令和3年度の文化功勞者に選ばれました。



©Timothy Greenfield-Sanders



平成知新館 外観 (撮影：北嶋俊治)

【ご来館くださる皆様へ】

当館では、新型コロナウイルスの感染拡大予防のための取り組みを行っております。安心して博物館をお楽しみいただける環境維持のため、マスクの着用、検温など、皆様のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

講座・イベント

《土曜講座》

1月15日「虎一現実と空想のはざまに」

京都国立博物館主任研究員 水谷亜希

1月29日「西宮山古墳の発掘調査と出土品の意義」

京都国立博物館研究員 古谷 毅

2月5日「清時代の花鳥画と沈南蘋」

京都国立博物館研究員 森橋なつみ

2月12日「仏像の来た道—インド・中国そして日本へ—」

京都国立博物館館長 松本伸之

2月19日「本法寺所蔵「古文書貼交屏風」について」

京都国立博物館美術室長／列品管理室長 羽田 聡

2月26日「キモノと流行—江戸時代初期のモード—」

京都国立博物館工芸室長／企画室長 山川 暁

3月5日「桃の文化史—西王母・孫悟空・桃太郎—」

京都国立博物館特任研究員 宮川禎一

3月12日「しあわせの貝合わせ」

京都国立博物館教育室長 永島明子

※平成知新館 講堂にて13時30分～15時に開催。定員100名聴講無料(ただし当日の観覧券等が必要)。
※当日10時より、平成知新館1階グランドロビーにて整理券を配布し、定員になり次第配布を終了します。整理券配布の待ち列が長くなり、適切な間隔が保てないと判断した場合には、配布の開始を早めさせていただきます。

《新春 雅楽演奏会》

日時：2022年1月9日(日) 午前11時～、午後2時～ *各回約40分

会場：平成知新館 講堂

《芸舞妓 春の舞》

日時：2022年1月10日(月・祝) 午前11時～、午後1時～ *各回約30分

会場：平成知新館 講堂

参加方法：いずれも、当日10時より、平成知新館1階グランドロビーにて各回の整理券を配布し、定員になり次第、配布を終了します。定員100名(予定)(自由席)。無料(ただし、当日の観覧券等が必要)。

《留学生の日》

京都国立博物館では、留学生の方々に日本文化への理解を深めていただくため、「留学生の日」を設けています。今年度は2022年1月22日(土)に実施します。留学生の方は、学生証のご提示いただくと、無料で名品ギャラリー(平常展示)をご観覧いただけるほか、多言語スタッフによるギャラリーツアー(要予約)も予定しています。この機会にぜひご来館ください。

【イベントに関するお問い合わせ】 京都国立博物館総務課事業推進係
TEL.075-531-7504(月～金の10～12時、13～17時に受付 *祝・休日は除く)

《京都・らくご博物館【冬】～早春寄席～ vol.61》

日時：2022年2月4日(金) 18時30分開演(18時開場)

会場：平成知新館 講堂

出演：桂弥彦 桂小鯛 桂歌之助 <中入> 桂ひろば 桂吉弥

入場料：3200円(キャンパスメンバーズは学生証提示により2600円)

※全席指定、名品ギャラリー無料観覧券付

※チケットご希望の方はお電話、またはウェブサイトよりお申し込みください。

申し込み先：お電話／博物館事業推進係 075-531-7504(月～金の10～12時・13～17時に受付
*祝日は除く) ウェブサイト／<https://www.kyohaku.go.jp/jp/event/rakugo/> らくご博物館【冬】
申し込み画面

これからの展覧会

◆特別展 河内長野の霊地 観心寺と金剛寺—真言密教と南朝の遺産—
2022年7月30日(土)～9月11日(日)

◆特別展 京に生きる文化 茶の湯
2022年10月8日(土)～12月4日(日)

新型コロナウイルス感染症予防、拡大防止のため、展覧会やイベントの中止や延期、会期や展示期間の変更などを行う場合がありますので、最新情報については、当館ウェブサイト等をご確認くださいませよう願います。

◆部分開館および庭園のみ開館の予定◆

特別展の前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止しております。ご来館の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

名品ギャラリー部分開館：2022年3月15日(火)～3月21日(月・祝)
2F、1F-1-2展示室(3F、1F-3～6は閉室)

庭園のみ開館期間：2022年3月23日(水)～4月10日(日)

ご利用案内

[開館時間] 9:30～17:00

*2022年1月2日～2月13日の金・土曜日は20:00まで開館
*入館は各開館の30分前まで

[観覧料] 【名品ギャラリー】

<2022年1月2日～3月21日>

一般700円、大学生350円

*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

*キャンパスメンバーズ(含教員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

【庭園のみ開館期間】

<2022年3月23日～4月10日>

一般300円、大学生150円

*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

*キャンパスメンバーズ(含教員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

*有料(一般のみ)にてご入館の方には、庭園ガイド冊子がつきます。

[休館日] 月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館)、
12月27日～2022年1月1日

アクセス

JR=京都駅下車、市バスD1のりばより100号系統、D2のりばより206・208号系統にて博物館・三十三間堂下車すぐ
プリンセスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分
近鉄電車=丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分
京阪電車=七条駅下車、東へ徒歩7分
阪急電車=京都河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分
駐車場は有料となっております。ご来館の際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

*「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒(角2封筒は120円、長3封筒は94円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館企画室までお申し込みください。



〒605-0931 京都市東山区茶屋町 527

TEL. 075-525-2473 (テレホンサービス)

ホームページ <https://www.kyohaku.go.jp/>

発行日 2022年1月1日 デザイン 谷なつ子

編集・発行 京都国立博物館 印刷 岡村印刷工業株式会社

京都国立博物館
KYOTO NATIONAL MUSEUM

